

平成30年3月29日

プレスリリース

報道各位

臨時総会決議事項について

平成30年3月29日開催の第49回臨時総会において下記のとおり決議されましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成30年度事業計画及び収支予算（案）の件

原案どおり承認された。

* コメ先物市場の本上場の実現に向けて生産者をはじめとする取引参加者の裾野拡大及び市場流動性の向上を最優先課題と位置づけ、①コメ先物市場のプレゼンス向上②コメ先物市場設計改変③ザラバシステムの導入④啓蒙活動の展開⑤次世代商品の調査研究に重点的に取り組むこととする。（別紙）

* 予算案総額は 479,763,000 円（前年比 44.9%増）

保有不動産の完全取得等に伴う予算規模拡大を反映したもの。

引き続き、市場振興関係費に重点をおきながら経費節減に努める。

2. 平成30年度会費の賦課及び徴収方法（案）の件

原案どおり承認された。

* 定額会費

受託会員 125,000 円（税抜）

一般会員 20,000 円（税抜）

* 予納定率会費

大阪コメ、新潟コシ 30 円（税抜）

東京コメ 55 円（税抜）

その他の商品 50 円（税抜）

* 受渡手数料

100 円（税抜）

以上

平成 30 年度 事業計画

平成 30 年度は、来年度に米穀の試験上場期間が満了することを見据えるなかで、引き続き本上場に向けた環境整備をはかることに全力を傾注することとし、生産者をはじめとする取引参加者の裾野拡大及び市場流動性の向上を最優先課題と位置づけ、これらに重点的に取り組むことと致します。

併せまして、国内商品先物市場を取り巻く環境が厳しさを増すなかであります。持続的かつ安定的な市場運営に向け、収支均衡の早期実現を目指し、効率的な経費支出に重点をおきつつ、中期的な視点での市場活性化に向けた展開を念頭におき、下記事業計画を推進して参ります。

記

(1) コメ先物市場のプレゼンス向上

米穀の減反政策が転換する初年度を迎えるにあたり、コメ先物市場の存在意義がより一層高まることに鑑み、生産者をはじめ、卸業者、外食産業等の当業者に向けて、セミナー、勉強会等を通じた具体的な先物取引の活用に関する提案活動を活発化させますとともに、特に JA グループとのコミュニケーションを高めるなかで、産業インフラとして国内農業に資する先物市場の確立に向けた基礎的環境の構築を目指して参ります。

(2) コメ先物市場の市場設計改変

コメ先物市場における特定産地品種銘柄としての新潟コシへの産地を中心とした関心の高まりを踏まえるなかで、ニーズに即した新たな銘柄追加に関する具体的な検討をすすめるとともに、既存銘柄について、それぞれの役割を整理しつつ、商品設計の見直しに着手して参ります。

(3) ザラバシステムの導入

板寄せ取引からグローバルスタンダードであるザラバ取引に移行するための新たな取引システムを本年度上半期に稼働することを目指すなかで、板寄せ取引では困難とされていたマーケットメイカーの導入をはじめとする市場流動性供給に向けた諸策について積極的に検討をすすめ、特に国内外の新たな市場参加者に向けた環境整備をはかって参ります。

(4) 啓蒙活動の展開

受託会員の各種セミナーに関するサポートはもとより、WEBSITE上で展開している各種市場レポートやメールマガジン等の本所刊行物の質を高めつつ、タイムリーな情報発信に努めるなかで、商品先物市場の普及啓発を強化して参りますとともに、中期的な視点から、関係取引所と連携しつつ、デリバティブのイメージ向上や大学生へ向けた寄附講義等について、引き続き積極的に展開して参ります。

(5) 次世代商品の調査研究

国際的な中心市場が他国に確立されていない米穀市場の特異性を踏まえ、特に海外投資家のニーズに即した商品開発を行う視点から、米穀に関連する指数商品やオプション商品、さらには、証券市場との連携を見据えたETF商品等についての調査・研究を展開して参ります。

以上